

K S K P

# 連盟ニュース No.14

特定非営利活動法人尼崎市身体障害者連盟福祉協会

## 障害者支援事業を行う「NPO法人尼崎障害者センター」が12月に認証されます

わたしたちは、障害児・者の人権と生活を進展させるため永年の活動を続けてきました。

1992年JR尼崎駅エレベータ設置運動以来、それぞれの活動団体の方向を大切にしながら、市内の障害者関連団体が力を合わせてきました。

特にこの3年ほど障害者自立支援法のもたらす制度変更は、障害者の生活にかかわるいくつもの問題点を生じさせました。そのような中から、尼身連を始めとして市内の障害者関連団体・作業所が集まりゆるやかなネットワークが作られ、連携を深めてきました。

その中でそれぞれの団体から有志の活動として、会合の事務支援、生活・福祉相談、さまざまな福祉情報の資料提供が行われてきました。しかしいずれも有志の不定期な活動で不安定なものでした。

このたび、半年ほどの準備期間のあと、各団体役員、作業所リーダー16名が会員となって8月30日に、障害者・家族・障害者団体・作業所などへの支援事業をおこなうための「NPO法人尼崎障害者センター」を設立し、兵庫県へ申請中です。

<http://amasgscenter.hp.infoseek.co.jp/> 12月下旬に認証の予定です。

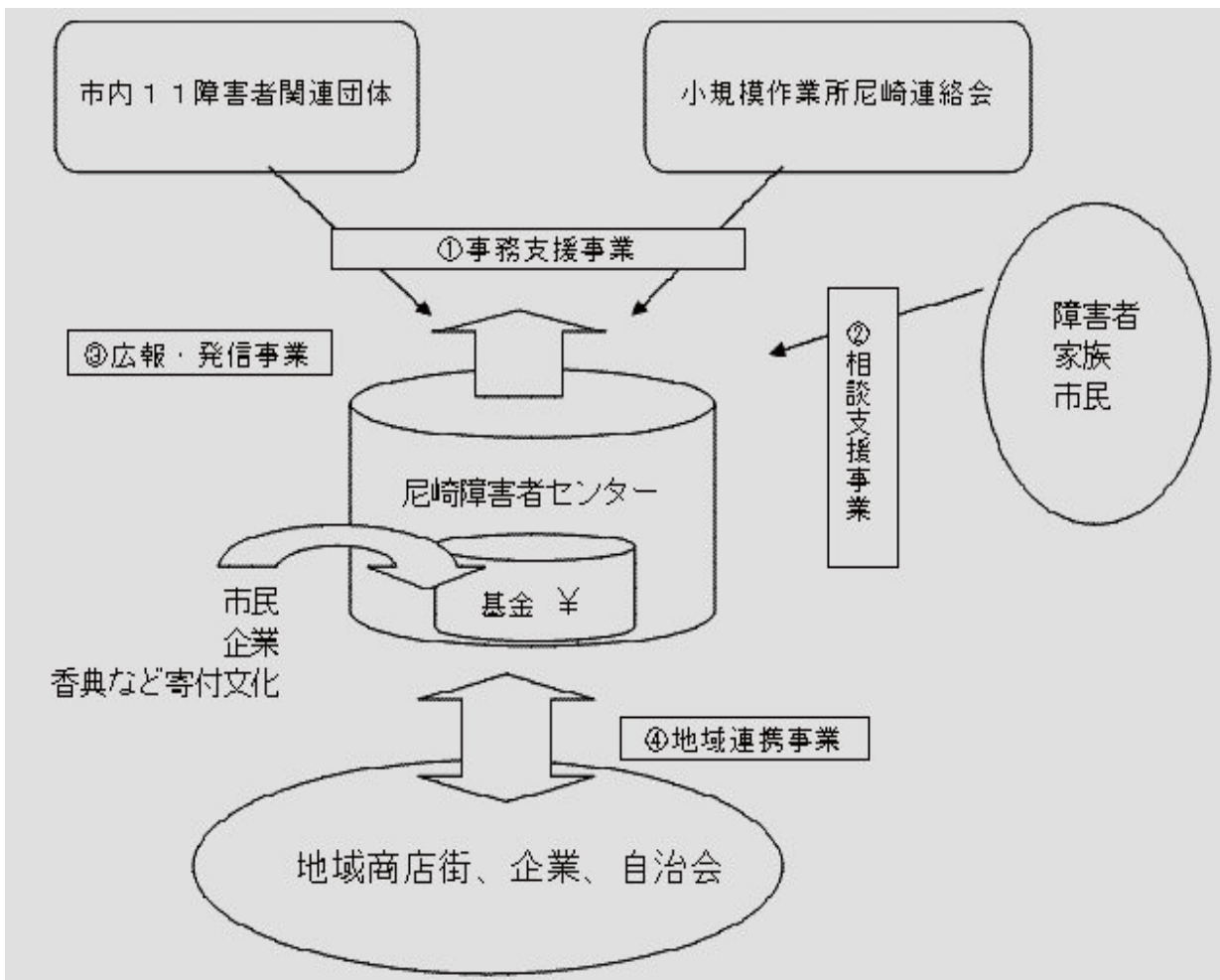
認証されたNPO法人尼崎障害者センターでは、障害者または作業所などの時間給職員を雇用し、当面、①障害者団体・作業所への連絡事務や資料提供、②携帯電話を設置し、生活・福祉に相談を受け書類作成などを支援、「尼崎障害者センター基金」への定期的・安定的な寄付の呼びかけなどを行ないます。

時間給職員を雇用するには資金がいりますが、これらの支援活動を積み重ねる中で、地域での信頼を獲得し「尼崎障害者センター基金」を立ち上げ、市民・企業からの寄付の受け皿とし、幅広い支援事業の補助にあてるという阪神間でも初めての「資金調達（ファンドレイジング）」に取り組みます。（次ページへ）

減らされる一方の福祉予算の食い止め・増額の要求は障害者運動として障害者関連団体が連携し続けますが、これらの支援活動をボランティア的有志の不定期な活動に頼るのではなく、自前の資金調達の上で職員を雇用し、安定した支援活動を展開することが目的です。資金調達が進めば担当職員を増員し、作業所などが困っている税務・会計への支援、さらに作業所製品の販売ルートについて商店・企業との橋渡しなどひとつひとつ支援事業を広げていきます。

今年度は「しみん基金・こうべ」からセンター設立に際し 30 万円が助成されることとなり、12 月発足からの職員雇用が実現します。月 30 時間（週 2・3 回、2・3 時間）、時間給 1,000 円でこれらの支援作業をしていただける職員を公募します。趣旨ご理解の上、障害者及び作業所などで働くパート職員の皆さんに呼びかけます。問い合わせは 6 4 1 8 - 2 1 2 0 まで。

(広瀬徹：NPO 法人尼崎障害者センター設立準備委員会代表)



## 身体障害者相談員研修会開催する

去る 9 月 2 0 日に当協会の主催する身体障害者相談員研修会を身体障害者福祉会館にて開催しました。当日は、多くの身体障害者相談員の方々がご出席され、予定時間を越えての研修会でした。

来年 4 月から尼崎市が中核市に移行するにあたり、今まで県が発行していた障害者手帳が尼崎市の発行となるなど多くの障害者福祉施策事務が市に移譲されるという説明がありました。私たちはこの移行によって福祉サービスを低下させる事は認められません。これから、身体障害者相談員活動をする中で監視をしていく必要があります。

これからも、身体障害者相談員研修会等を通じて、福祉施策等を学び、私たち仲間が安心して、住みなれた地域で生きがいを持って生活を出来る街にしていくためにお互いに頑張っていきたいです。

今後、身体障害者相談員は、身体障害者相談員研修会の出席を必修とすることについて障害福祉課と協議をしていきたいと思っております。

## スポーツ大会・福祉のつどい盛況

秋の恒例行事となっている心身障害者・児スポーツ大会や市民福祉のつどいが今年もまた行われました。

心身障害者・児スポーツ大会は 9 月 2 7 日に記念公園体育館で行われました。今年も参加者がたくさんいましたが、参加者・関係者の協力で大きな混乱はなく、スムーズに進行しました。どの競技もみな一生懸命取り組み、特に人気のパン食い競争にはたくさんの参加があり、にぎわっていました。終盤の綱引きはとても熱が入り、白熱していました。リレーも追いつき追い越しの熾烈なレースとなり、会場からの声援が賑やかでした。

市民福祉のつどいは 1 1 月 1 5 日に天候に恵まれた橘公園で開かれました。バザーや模擬店のテントがずらっと並んで元気のいいかけ声が響く中、ステージでも負けじといろいろな発表が行われていました。最後は恒例となったビンゴゲーム！数字が発表されるたび、ため息や歓声があがっていました。

## 稲葉荘コンサート事業好評！手話落語、音楽会…

昨年度好評だった稲葉荘コンサートは今年はジャンルを拡大して開催しています。音楽会のみならず、障害者が取り組んでいる文化活動を広く紹介する事で共に生きる街づくりに役立てればと思っています。

9月には手話落語会が開かれ、宇宙亭のんき、宇宙亭あんみつ、桂福六さんをお迎えして、公演していただきました。手話落語を初めて見る方も多いい中、宇宙亭のんきさん、あんみつさんの豊かな手話表現に会場からは笑い声がこだましていました。後半には桂福六さんより手話落語の指導が行われ、簡単な小話を題材に参加者も舞台上がって手話落語に挑戦していました。あがってしまって動きがぎこちない方、本業顔負けの表現をしてみせる方という方もいました。

続いて11月15日には音楽会が開かれました。今年は、会館での視力部治療奉仕にも協力していただいている稲葉荘地区の富永泰子さんの詩吟教室で、みんなでお腹の底から声を出し、次に視力障害者を代表して堀口会長、谷村孝法さん、萩尾晴利さんがハーモニカで童謡からクラシックまで見事なテクニックで演奏。「六甲おろし」では会場に大合唱がひびき、最後に高橋克武さんのオカリナでシューベルトの「アベ マリア」など美しい音色で1部を閉めていただきました。小休憩のあと2部は、お待ちかねの混声合唱団「フロイデン・コール」の登場。16人とは思えぬ迫力の合唱で、美しいハーモニーの曲、懐かしい童謡メドレーなど聞きほれているうちに1時間が経ってしまいました。会場からはもっと聞きたい、また聞きたいという声が聞かれ、合唱団の方からは、とてもアットホームな雰囲気楽しく歌えたとの感想がありました。

来年度も地域の皆さんや障害者仲間とで楽しめる機会を作れたらと思います。

来年2月1日には和太鼓コンサートが予定されています。たくさんの参加をお待ちしております。

一九八四年八月二十日 第三郵便物認可(毎日発行)  
二〇〇八年十二月十三日 K S K P 通巻八〇八九号

- 【発行人】 関西障害者定期刊行物協会  
大阪市城東区中浜2-20-13 緑橋グリーンハイツアド企画気付
- 【編集人】 特定非営利活動法人尼崎身体障害者連盟福祉協会  
理事長 伊東 勇  
尼崎市稲葉荘3-9-26 尼崎市立身体障害者福祉会館内
- 【頒 価】 100円